



YHP フォーラム

2021/10/26



内容

- 1 はじめに
- 2 YHPとは
- 3 日本で推進するYHP
- 4 Q&A 意見交換

1

はじめに

VISION

こども食堂の支援を通じて、
 誰も取りこぼさない社会をつくる。

MISSION

こども食堂が全国のどこにでもあり、みんなが安心して行ける場所となるよう環境を整えます。

こども食堂を通じて、多くの人たちが未来をつくる社会活動に参加できるようにします。

ACTION

私たちは、誰もとりこぼされない社会を日本でつくりたいという思いを持って活動をしています。

各地域のこども食堂ネットワークを支援すること、何か社会に貢献したいと考えている企業・団体とつながりこども食堂へ支援を届けること、調査・研究をし、啓発をしていくこと。私たちは、3つの軸で、歩んでまいります。

Our Purpose

サイエンスの限界に挑み、患者さんの人生を変える
 医薬品をお届けする



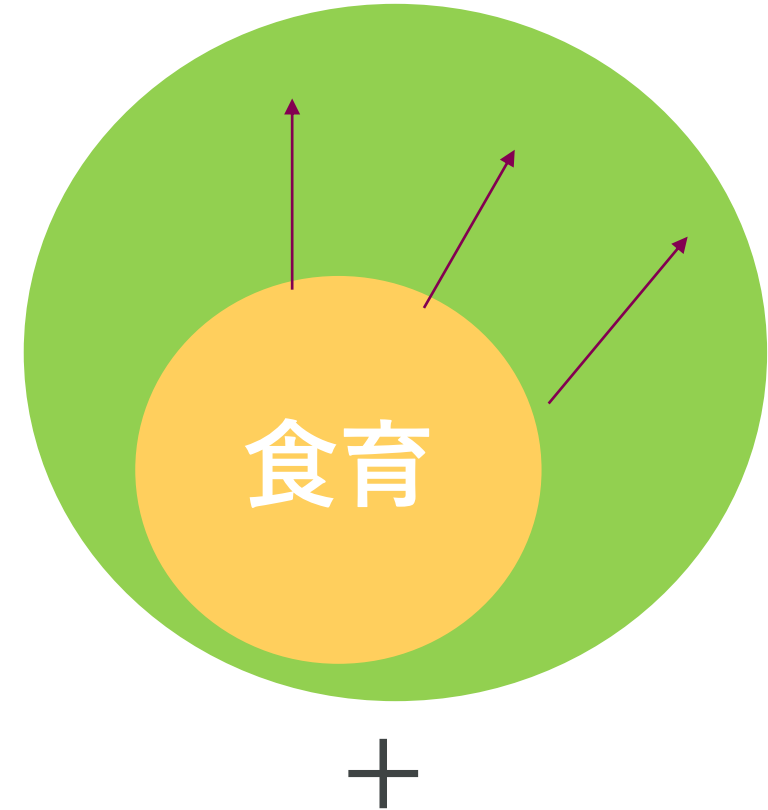
日本で推進するYHPプロジェクト

YHPのアプローチ

- NCDs（非感染性疾患）を防止するために若者にリスクに関する教育を行う
- 若者がより良い機会をつかむため、より良い行動を選択することを目指す

がん
2型糖尿病
心疾患
呼吸器疾患
精神疾患

日本のYHPのプログラム



ボランティア

YHP 日本での展開

目的：非感染性疾患予防に寄与する食生活リテラシーの向上
および、こども食堂における社員ボランティア活動促進

対象：全国のこども食堂に通う子ども、そのご家族

期間：3年間

主な活動内容：非感染性疾患予防に関する食育を中心とした健康教育
コンテンツ開発・運用および社員ボランティアによる活動支援・ボラ
ンティア参加の促進

2

YHPとは

アストラゼネカのヤングヘルスプログラム

世界中の若者に焦点を当てた
世界規模の疾患予防プログラムに
なります。

1

非感染性疾患（NCD）による社会的損失

世界では、感染性疾患よりも非感染性疾患によって死亡する人や健康を損なう人が多くいます。¹

NCDによる年間死亡者数は

4,100万人

これは世界の全死亡者の

71%に相当

糖尿病、がん、心疾患および
呼吸器疾患に関連する死亡は
NCDによる早期死亡²の

80%に相当

成人の**早期死亡の約70%**は、主に**青年期の行動**が原因と推測されています⁴

**1,500万
人超**

のNCDに関連す²
る死亡時の年齢は
30～69歳

これら「早期」死亡の

85%

は、低・中所得国で
発生²

2011～2030年の
経済損失は

47兆米ドル

と推定³

YHPには4つの重要な戦略的重点領域があり、地域、国 および世界レベルでのアドボカシーの取り組み、知識 とエビデンスを構築する



各国のYHP取組み事例

スペイン

- 肥満、薬物使用および負の健康問題
- 健康的な食習慣、薬物中毒の防止性育

ブルガリア

- 高い喫煙率-女子(38%)、男子(26%)
- 対面、SNSで禁煙を訴える

トルコ

- 高い2型糖尿病の罹患率が上昇
- 55の学校で健康な食事や運動に関するワークショップを実施

ドイツ

- 700人超のストリートチルドレン
- 健康な生活や栄養、料理に関するワークショップ

ルーマニア

- 58%の死因 冠動脈性心疾患
- スポーツクラブの創設と食事の教育

オーストラリア

- 4人に1人が肥満
- 野菜を栽培し食すプログラム

日本のYHP

食生活を中心とする5つのリスクを回避し、将来の病気を防ぐ生活習慣を！

喫煙



Tobacco

運動不足



Lack of exercise

大気汚染



Air pollution

過度の飲酒



Alcohol

不健康な食事



Unhealthy diet



若きリーダーを育成

- ・ 青少年の声はYHPの中心
- ・ 青少年が自分たち自身の健康擁護者となれるよう支援
- ・ 青少年が発言しリーダーシップを発揮するためのプラットフォームを提供



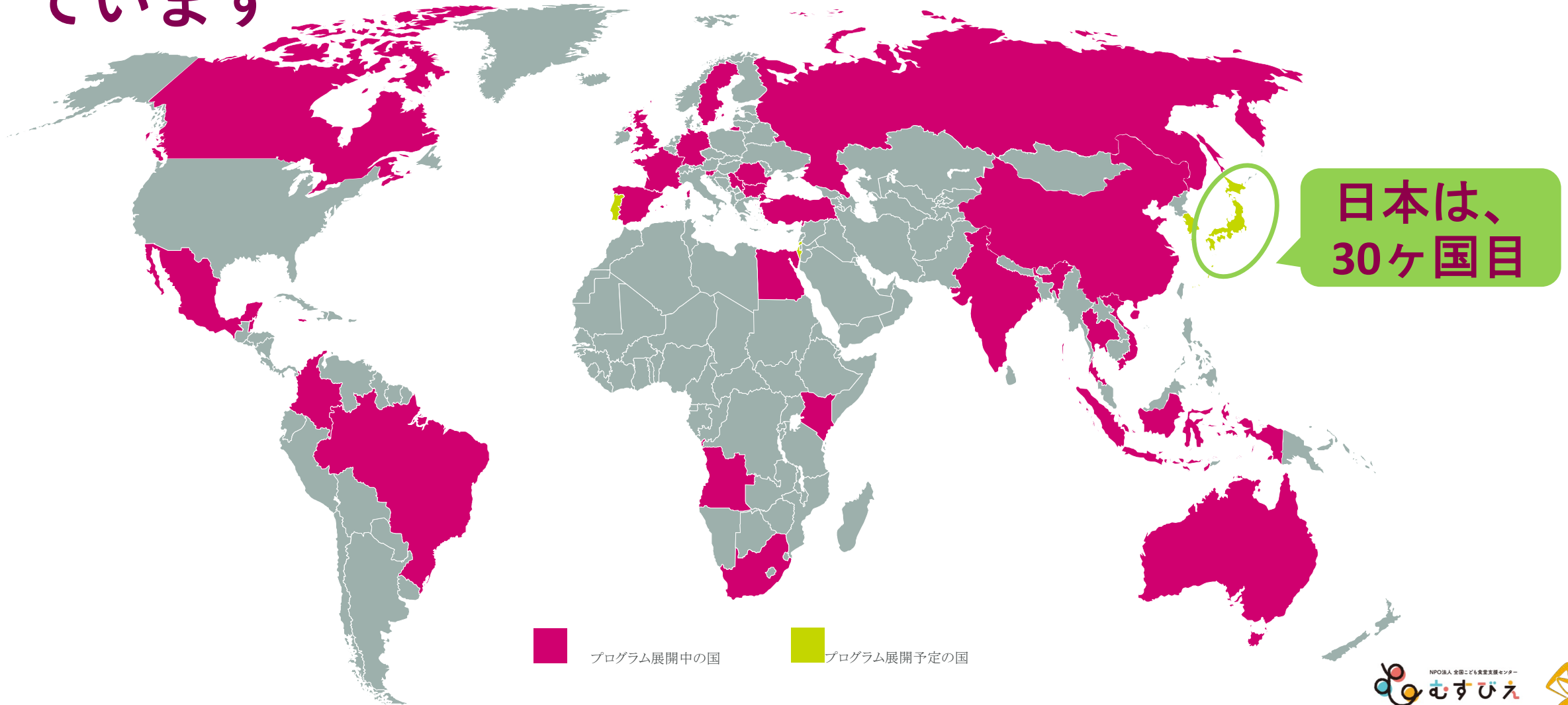
私たちには人の心を動かす多くの若者と協働するという特別な機会が与えられています

3

日本で推進するYHP



包括的な地域密着型の教育およびトレーニング プログラムを30ヶ国、500万人以上の若者に提供し ています



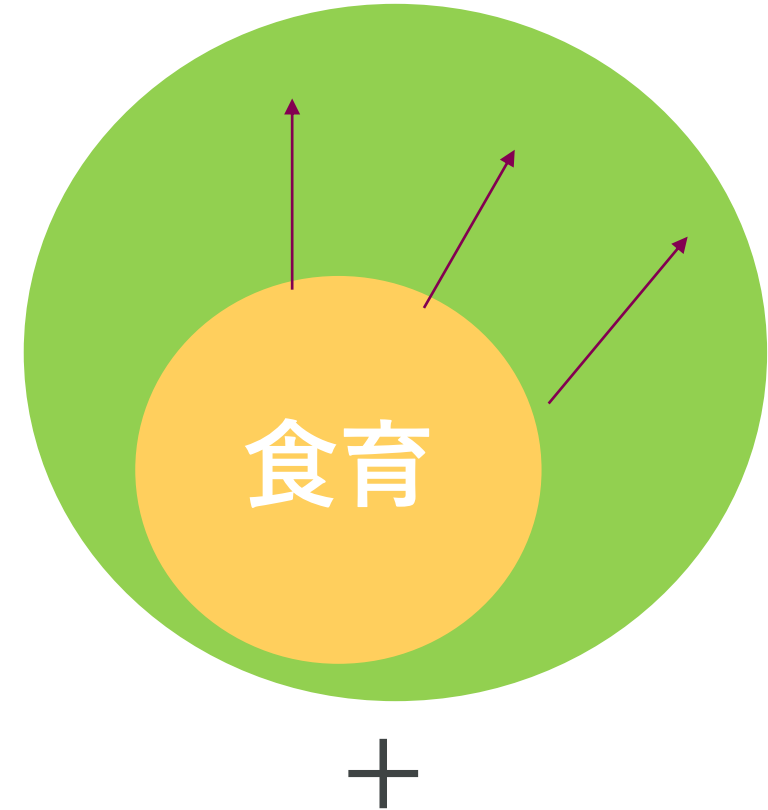
日本で推進するYHPプロジェクト

YHPのアプローチ

- NCDs（非感染性疾患）を防止するために若者にリスクに関する教育を行う
- 若者がより良い機会をつかむため、より良い行動を選択することを目指す

がん
2型糖尿病
心疾患
呼吸器疾患
精神疾患

日本のYHPのプログラム



ボランティア

3年間の活動

内容	目的・手段	頻度 (目標)	開始時期
1. フォーラム	コミュニケーション手段 YHP告知、経験の共有	半年毎	10月 YHPの紹介
2. 食育・健康教育	オンライン・オンサイト	4 半期～毎月	2021年内はコンテンツ開発、 オンライン食育・健康教育 2022年以降、状況を見てオン サイト
3. ボランティア	食育・健康教育を含む 食育・健康教育を含まない	毎月	2022年1月以降 2021年内は企画・見学

備考

- * フォーラムは、こども食堂とプロジェクトメンバーが情報発信＆意見交換をおこなう場。YHP告知や経験事例の発表を行う。録画を公開。
- * 食育・健康教育はCOVID-19の状況を見てオンサイトでの実施検討。複数プログラムを用意し、応募して下さったこども食堂と事前相談の上実施。
- * ボランティアは、参加者の背景によってメニューを調整。

プロジェクトメンバーの意気込み、こども食堂のみなさまへメッセージ



こども食堂の方や子どもたちのために、お役に立てるように頑張っていきたいと思います。(AZ 光武)

毎日の食事に少しでも気を付けて未来の健康や幸せを得られるなら、その「少しでも」にはとても価値があります。食を通して、皆さまと未来を築いていければと思っています。(むすびえ 朝倉先生)



子どもたちの心に響く楽しいプロジェクトにしたいと思います！(AZ 近藤)



多くのこども食堂とアストラゼネカの皆さんが繋がるきっかけになればと思います。よろしくお願いします！(むすびえ 山角)

管理栄養士の長井彩子です。こども食堂が食育の場にもなる、さらにこども食堂が魅力的なものになるということで、とても楽しみにしています！より良い食育教材を制作していきますのでご期待ください！(むすびえ 長井)



こども食堂のみなさまのお役に立つプロジェクトにしたいと考えております。ご期待ください！(むすびえ 関 弥生)



ボランティア伴走担当の山縣です。
3年後に全国50箇所のこども食堂で食育やボランティア活動が継続できるよう、全国のこども食堂のみなさんとアストラゼネカ社員を繋いでいくのが楽しみです！どうぞよろしくお願いします。(むすびえ 山縣)

YHPは体だけでなく心の健康も目指していると思います。これをやりたい、あれをやりたいという前向きな心になればその夢のためにちゃんとした食事で健康な体作りを、と思えることもあると思うので、こどもが夢をもって歩んでいけるような取り組みにできればと思います。(AZ 橋本)



これからの日本の将来を背負っていく子どもたちの為に、小さなことでも、出来ることから貢献出来ればと思っています。(AZ 岩倉)



プロジェクトメンバーも、参加される方も、自分も！、楽しめるプロジェクトにしたいと思います。(AZ 大河原 美佐紀)



色々なこども食堂に行ける機会があればと思います。(むすびえ 脇村)



栄養教諭の板津彩虹です。鹿児島県の教育委員会で離島学校の給食運営と食育授業をしています。これからこども食堂でのお手伝いをさせていただけることをとても楽しみにしています！よろしくお願いします。(むすびえ 板津)



よろしくお願いいたします！

ご清聴ありがとうございました。

アンケートにご協力お願いいたします。



<https://forms.gle/dRD7BUvitNPpSpeE8>

ご質問やご意見は上記のフォームに
ご記入ください

